令和４年度　御船町教育委員会指定

教科体育研究発表会

研究主題

「すべての児童が 運動の楽しさや喜びを味わう 体育学習」

研究紀要

はじめに

本校では、平成元年以来、体育の研究を継続しており、今年度でちょうど３４年目を迎えます。

「確かな学力」「豊かな心」の育成にはそのベースとなる「健康・体力」の育成は欠かすことのできないものです。体育の学習においては知識・技能の習得のみならず、学習過程の工夫により思考力・判断力・表現力等の育成はもとより、ルール作りや約束を守ること等の学びに向かう力・人間性等を身に付けることができると考え、継続した取組を進めてきました。

令和元年度から、「すべての児童が運動の楽しさや喜びを味わう体育学習」を研究主題として研究に取り組んできました。今年度も御船町教育委員会の指定を受け、これまでの研究を振り返りながら、熊本県上益城教育事務所様・甲佐町立白旗小学校長様等、関係の皆様のご指導、ご協力のもと「体育科における主体的・対話的で深い学びとはどうあるべきか」について、学校をあげて研究と実践に取り組んでまいりました。

私たちはこれまでの伝統を受け継ぎ、体育の研究の深化を図りながら、一方で体育をとおした人づくりを念頭に置き、日頃から指導を行っており、本年度も本校の取組をまとめました。

この総括において、本校の取組を振り返るとともに、皆様方のご指導をいただきながら、更に研究を深め、木倉小学校児童の健全な育成につながることを祈念し、ご挨拶といたします。

令和５年２月９日（木）

主催　御船町教育委員会・御船町立木倉小学校

御船町立木倉小学校

研究主題
「すべての児童が　運動の楽しさや喜びを味わう　体育学習」

研究主題設定の理由

学習指導要領の趣旨から
〇学習指導要領等の枠組みが見直され、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、「カリキュラムマネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の実現が重要とされている。

体育科改訂の要点から
〇生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培うという観点が重視されている。
〇体験的な活動を重視し、「する・みる・支える・知る」といったスポーツとの多様な関わり方や保健の技能について、内容が改善されている。

中央教育審議会答申から
〇授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし，更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であるとしている。

体育科の今日的な課題から
〇子どもの体力について水準が高かった昭和６０年頃と比較すると、依然として低い状況が見られる。
〇積極的に運動する児童とそうでない児童との二極化が見られ、生涯スポーツの観点からも運動好きな子どもを育てる必要がある。
〇人間関係が希薄になり、友だち同士でのコミュニケーションを苦手とする児童が増えてきている傾向も見られることから、仲間と関わり合う場を設け、相手を思いやる心や認め合う態度等を育てていく必要がある。

本校の教育目標から
〇「ふるさと木倉を誇り　自他を大切にし　自分の特長を伸ばす児童の育成」の教育目標を具現化するために、児童一人一人のつながりを深める教育を推進することや豊かな人間性とたくましい体を育むことを目指している。

本校児童の実態と教師の指導の状況から
〇これまでの継続的な取組により、児童の体育授業に対する関心意欲は高く、９割以上の児童が「体育は楽しい」と答えている。
〇これまで、意図的・計画的な学習計画と評価計画を作成し、実践を積み重ねてきた。しかし、課題に対して粘り強くその解決に向けて取り組む力は不十分であり、児童同士の関わり合いについても、より一層豊かなものにしていく必要がある。更なる児童の主体的な課題解決学習を求めて、児童が豊かに学び合う中で、すべての児童が主体的に生き生きと学ぶ授業づくりをしていく必要がある。
〇体力の向上については、今年度の体力テストの結果から、全身持久力やスピード、筋パワーに課題が見られた。課題の解決に向けては、生涯スポーツにつなげるという視点から、トレーニング中心ではなく、児童が主体的に取り組むために、「運動遊び」「関わり合い」「日常化」をキーワードとした取組を行っていく。

研究主題のとらえ方

「すべての児童が運動の楽しさや喜びを味わう」とは
運動が「できる」という楽しさや喜びだけでなく、「運動の行い方が分かる」「友だちと関わる」など、運動を通した様々な楽しさや喜びがあることに気付く姿と捉える。
主体的に課題解決学習に取り組み、豊かに関わり合うなかで、児童は運動の特性により深く触れる楽しさを味わうとともに、運動の意味や価値等に気付くことができると考える。

「体育学習」とは
本校では，体育学習を健やかな体と心を育むための学習と捉えている。「教科体育」や「全校体育」を中心的な学習と位置付け、体育的行事や休み時間の遊びなどは、補完的な位置付けにしている。

研究構想図

学校教育目標

ふるさと木倉を誇り　自他を大切にし　自分の特長を伸ばす児童の育成

研究主題

すべての児童が　運動の楽しさや喜びを味わう　体育学習

研究の仮説１：教科体育の充実

児童の実態を踏まえ、以下のような指導・評価の工夫を行えば、児童は仲間とともにより運動の特性にふれた楽しさを味わうことができるであろう。

視点４　学び合う場の工夫

視点２　教材、場づくり・教具の工夫

視点３　課題解決学習の工夫

視点５　指導に生かす評価の工夫

視点１　単元デザインの工夫

身に付けさせたい学習内容（学習指導要領）

児童の実態　**運動の特性**　教師の思い・願い

研究の仮説２：体力の向上

児童の課題を明確にし、以下の２つの視点を中心とした学校全体の取組を行えば、児童は仲間とともに伸びる楽しさを味わうことができるであろう。

視点１
体力向上をめざす
「時間」と「場」の設定

視点２
日常的に運動に親しめる
環境の整備

児童の実態　**基礎体力**　教師の思い・願い

研究の実際　～仮説１の検証～

視点１　単元デザインの工夫

手順①身に付けさせたい学習内容の明確化

６年「選んで磨こう　ビューティフルボックス～大きく美しく～」の実践から

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①自己の力に応じた跳び箱運動の行い方を言ったり書いたりしている。 ②助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。（かかえ込み跳び） ③助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。（伸膝台上前転） ④伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を越えたら腕と足を伸ばし、体を反らせながら回転することができる。（頭はね跳び）	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。 ②自己や仲間の課題解決のために考えたことを他者に伝えている。	①跳び箱運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ③器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配ろうとしている。

小学校学習指導要領解説体育編の例示から、６年生で指導する技能や、技能に関わる思考・判断を整理し、まとめていく。

児童の実態と、「〇〇ができるようになりたい」「〇〇をすることが不安」等の、思いや願いを大切にする。

【直接的指導とは・・・】
課題解決学習において、教師と児童が関わり合う場面で、児童から運動のこつやポイントを引き出し、全体で共有していく指導のこと。

手順②③直接的指導のポイントの整理と、イメージ言葉の予想

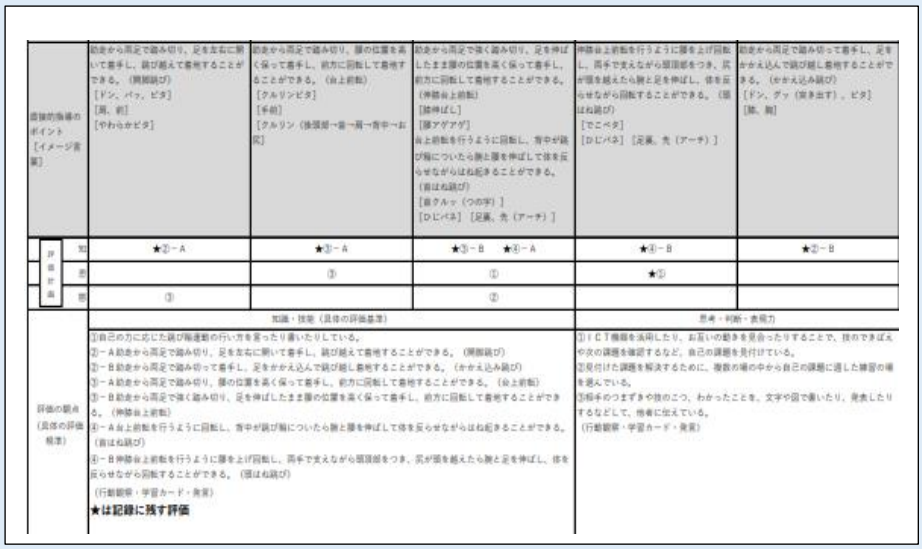
直接的指導のポイント［イメージ言葉］	助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。（開脚跳び） ［ドン、パッ、ピタ］ ［開、前］ ［やわらかピタ］	助走から両足で踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。（台上前転） ［クルリンピタ］ ［手前］ ［クルリン（後頭部→首→肩→背中→お尻］	助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。（伸膝台上前転） ［膝伸ばし］ ［腰アゲアゲ］ 台上前転を行うように回転し、背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起きることができる。（首はね跳び） ［首クルッ（つの字）］ ［ひじバネ］［足裏、先（アーチ）］	伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を越えたら腕と足を伸ばし、体を反らせながら回転することができる。（頭はね跳び） ［でこベタ］ ［ひじバネ］［足裏、先（アーチ）］	助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。（かかえ込み跳び） ［ドン、グッ（突き出す）、ピタ］ ［膝、胸］

身に付けさせたい学習内容と児童の実態から、本単元で指導する「技能のこつやポイント」等をより具体的に書き出し、単元の中で「いつ」「何」を指導するのかを考えて計画を立てる。

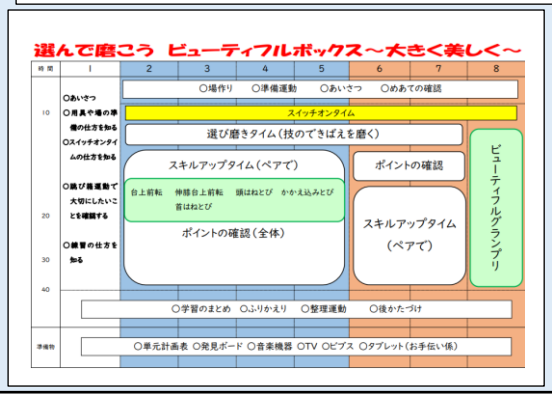
直接的指導場面で、「技能のこつやポイント」等について、共有する際の言葉を、児童にとってイメージしやすい言葉で考える。

手順④指導計画・評価計画の作成

単元を通した学習課題として「回転したり、支持したりするなどの技のこつを見つけたり、大きく美しく跳ぶために個人やペアで場所を選んで練習したりして、跳び箱運動を楽しもう。」という課題を児童に提示し、学習する目的を明確にする。単元の始めに、主運動を行ってみることで、難しかったこと、できるようになりたいことを出し合い、より主体的な課題解決学習を展開できるようにする。



１単位時間に評価する項目を明確にしながら、毎時間確実な見取りができるよう計画を立てていく。
教師が「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」を明確にする。



単元計画表を児童にも提示し、単元の見通しをもって学習を行うことができるようにする。

視点２　教材、場づくり・教具の工夫

主体的に学習するための取組

３年「もっと遠くへとびこえよう！クッパのお城へヒアウィーゴー！」の実践から

①スイッチオンタイムの設定

「心も体もスイッチオン」を合言葉に、３年生では、「幅跳び」の動きに関連した動きの場を４つ作り、音楽に合わせてサーキット形式で移動するようにした。主運動に入る前に運動の心地よさを体感させ、苦手意識をもつ児童を運動に引き込むための手段とするとともに、和やかな雰囲気をつくり、活発な主運動へとつながるような運動を仕組んだ。

②場づくりの工夫

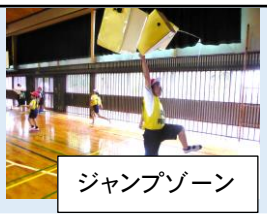
着地する場所を２カ所作り、自分で選択できるようにした。跳び箱やロイター板を使い、力強い踏み切りや上方に跳ぶことを意識できるようにした。

③自分の課題に合った場の選択

事前の実態調査をもとに児童にとって課題となりうる場を設定する。そして学習の中で児童が自分たちのチームの課題に合わせて場を選択し課題解決ができるように、１単位時間の学習の流れを仕組む。

ちゃくちゾーン

とびこえゾーン



ジャンプゾーン

リズミカルゾーン

視点３　課題解決学習の工夫

課題を見つけ、解決に向けて
思考・判断する力を伸ばすための取組

５年「マット名人になろう！」の実践から

①課題発見

児童の振り返りや技の動画をもとに、本時の課題の焦点化を図る。

②課題解決

「イメージ言葉」として発見ボードにまとめ、共有する。

焦点化された課題について、運動しながら考える時間を確保する。その後、一斉の直接的指導場面を設定し、技能のこつやポイントについて、児童から気付きを引き出す。

③工夫しながら課題解決（「分かる」から「できる」へ）

共有した「イメージ言葉」を動きとして体感し、技能を身に付けるための時間を設定する。イメージ言葉と動きをつなげ、「分かる」から「できる」段階に近付けることで、技能の向上を図る。

視点４　学び合う場の工夫

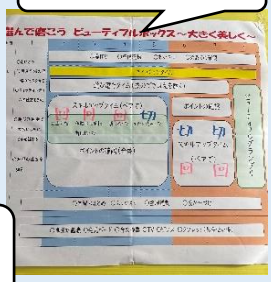
学び合いによって自分の考えを広げたり深めたりするための取組

６年「選んで磨こうビューティフルボックス～大きく美しく～」の実践から

①導入　めあて（課題）の共有

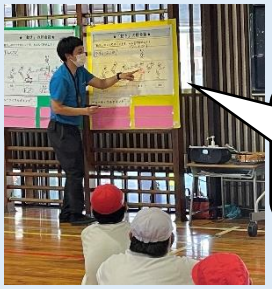
ペアトークで自分のめあてを伝え合う。

単元計画表の提示



②展開　直接的指導による伝え合う視点の焦点化・可視化・共有化

直接的指導場面において、ICT機器を活用し、よい動きのこつやポイントを、焦点化しながら共有する。



発見ボードを活用し、発見した技能のこつやポイントを焦点化・可視化し、学級全体に共有化する。

「ひざ、キュッ」

イメージ言葉を活用しながら、ペアでの運動を行うことで、活発な学び合いにする。

③整理　「振り返りタイム」の設定

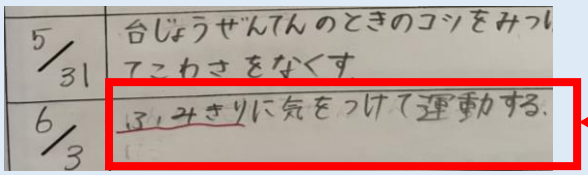
学習カードに自己評価を記入した後、「分かったことや課題」「友達の良さ」を伝え合う。

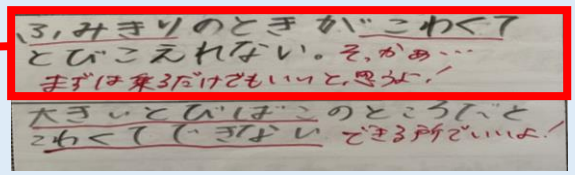
視点５　指導に生かす評価の工夫

①学習カードの活用

学習カードは、各学年の発達段階に応じて記入する内容を変え、系統的に作成している。学習カードに「わかったこと・気付き・自分の課題等」を記入させることで、児童のめあてと振り返りが一目で分かり、児童の困りに寄り添った授業の展開に役立てることができる。そして、その時間の振り返りから児童の次時への学習意欲につながるようにしている。

高学年の例

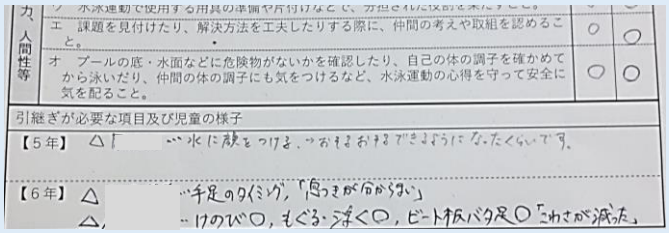




②教師による評価の明確化

単元計画を作る際に、具体的な評価基準を作成し、それに基づいて児童への声かけを行う。そうすることによって児童の「わかって、できた」といった深い学びにつなげるようにしている。

③バトンタッチファイルの活用



１年生から６年生まで、児童の実態を引き継いでいき、全学年の実態を把握した上で単元計画を考えるようにしている。

研究の実際　～仮説2の検証～

視点１　体力向上をめざす「時間」と「場」の設定

全校体育の取組

キーワード：「たくさん体を動かす」（体力向上）と「たくさん声を掛け合う」（関わり合い）
⇒声を掛け合いながら、仲間とともに運動の楽しさを味わうことで、生涯体育につないでいく。

１学期

音楽に合わせて様々な動きを組み合わせながらリズミカルにジャンプして進む。

「リズムジャンプ」

２学期

「タグとり鬼」

「陣とり鬼」

縦割り班ごとに５つの場をローテーションで回る。
・タグとり鬼：走力アップ
・陣とり鬼：走力アップ
・ボンバーゲーム：投力アップ
・リバーシ：持久力アップ
・遊具王：筋力アップ

「リバーシ」

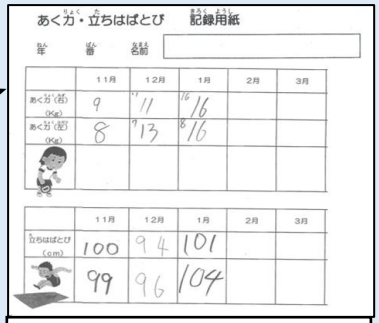
「遊具王」

「ボンバーゲーム」

児童会及びその他の取組

第１回体力テストで課題のあった種目にしぼり、第２回体力テストを行う。教師も、実践の振り返りと今後の指導につなげていく。

毎月１回、体力測定会を行う。児童が自分の体力の伸びを実感するとともに、さらなる運動への課題意識や関心・意欲を育む。



「体力測定会」の記録用紙

朝の時間に体育委員が中心となって、朝のランニングに取り組む。

「ランランモーニング」

視点２　日常的に運動に親しめる環境の整備

運動施設の整備

廊下を中心に運動に親しめるような環境の整備を行い、休み時間の「遊び」と結び付け運動の日常化と多様化を図る。

「ジャンピングボード」

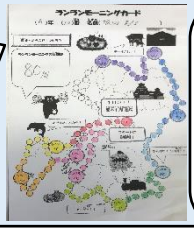
「ケンパ・ラダーロード」

「的当て」

「立ち幅跳びゾーン」

運動についての日常的な達成状況の可視化

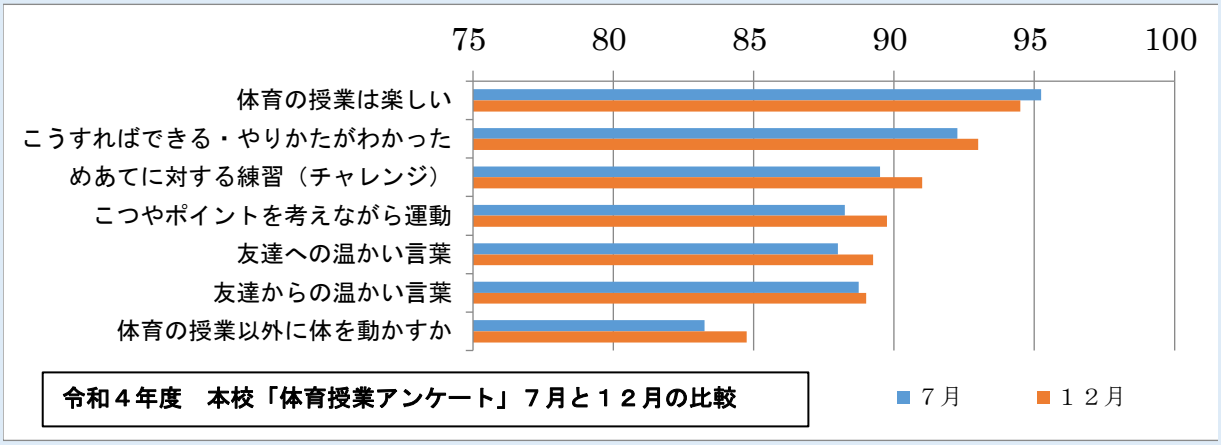
「ランランモーニングカード」を配付し、目標をもって意欲的に取り組めるようにする。



廊下に「体育コーナー」を設置し、全校体育での達成状況や体力向上に向けた取組について紹介する。

研究の成果と課題

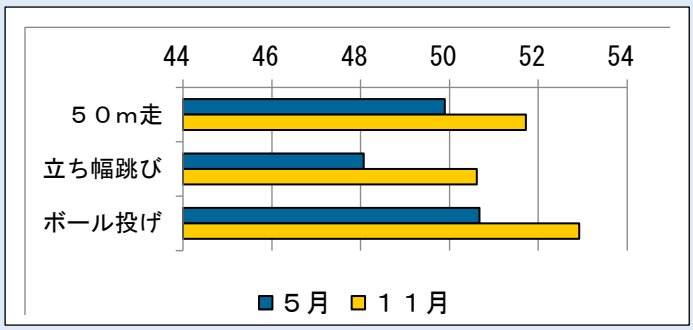
体育の授業についてのアンケート結果から



今年度の体力テストの結果から

５月に実施した体力テストの結果から、全校の課題として捉えた３項目について、再度１１月に体力テストを実施した。（数値はT―スコア）

第２回体力テストでは、３項目とも記録の伸びが見られた。



【成果】

○学習過程の中に、友達と練習場所を選んだり、ペアやチームに合った練習方法を考えたりする機会を多く設定したことで、こつやポイントを考えながら運動をし、友達と関わり合って学ぶことの良さや効果を感じる児童が増えたと考えられる。（仮説１）

○児童が日常的に運動できる環境を整備したり、運動の行い方を紹介したりしたことで、体育の授業以外にも運動に親しむ児童が増えた。その結果として、体力の向上につながったと考えられる。（仮説２）

【課題】

▼学校全体で学び合いの仕方を系統的に考えることによって、さらに関わり合いが増え、友達との学び合いの良さを実感する児童が増えると考えられる。（仮説１）

▼更に環境整備を行い、全校体育で新しい取組を行うことで、運動に親しむためのきっかけとなり、児童の運動への関心や意欲が更に高まると考えられる。（仮説２）

お　わ　り　に

平成元年より３４年間にわたり、本校の体育研究を支えていただきました多くの皆様に心よりお礼申し上げます。昨年度はコロナ禍のため、オンデマンドの授業配信とオンラインによる研究発表会を行いました。本年度も同様の方法で本校の研究を公開させていただきました。本日の研究発表会でいただいた多くの示唆を、今後の研究推進に生かして参りたいと思います。今後も皆様の御指導、御助言を賜りますようよろしくお願いいたします。

御船町立木倉小学校　教頭　吉田　公雄

研　究　同　人

坂本政司　吉田公雄　坂本達男　黒木克昭　田中和美　渕上祐子　鳥井晴代
前田健志郎　濱口萌奈美　豊田翔平　石坂菜美　宮﨑敦史　宮下由佳理
米田和正　木原のりこ　山之口チヨ　三澤真由美